



「シャインマスカット」の作業軽減技術を開発

－早期GA処理でより作りやすく－

開発の背景・ニーズ

ブドウでは皮ごと、種無しへのニーズが高く、これらの需要を満たす「シャインマスカット」の栽培面積が急速に拡大しています。しかし、種なし（無核）栽培ではジベレリン(GA)処理による種なし化を行うため、短期間に多くの栽培管理が必要となり栽培規模の拡大が困難となっています。そこで、作業労力の軽減を目的として、「サニールージュ」で実用化されている早期GA処理の「シャインマスカット」への適用可能性と、早期GA処理時の最適な栽培管理方法について検討しました。

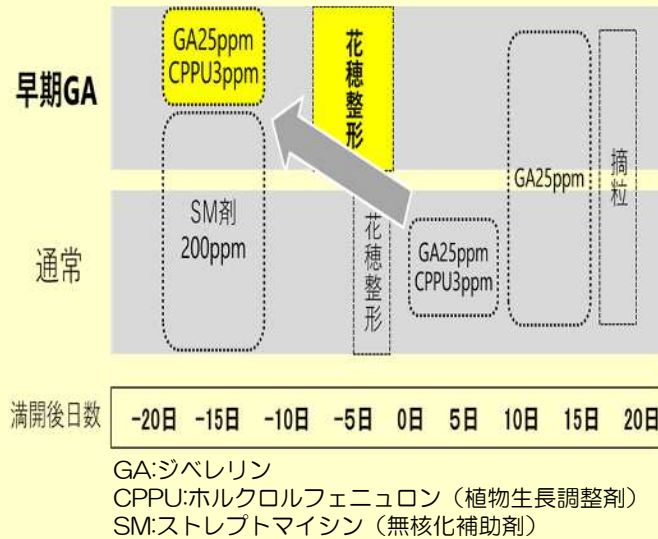
成果の内容

- 1回目GA処理について、通常は満開時～満開3日後ですが、早期GAでは展葉7～8枚期（満開14～19日前）に実施しました。
- 早期GAを実施した花穂が一定程度伸長した時に花穂整形を実施することで、房作りの作業時間が2割軽減しました。
- 果実品質では等級の悪化が懸念されましたが、糖度や食味の向上が示唆され、皮ごとの食べやすさでも大きな影響はありませんでした。

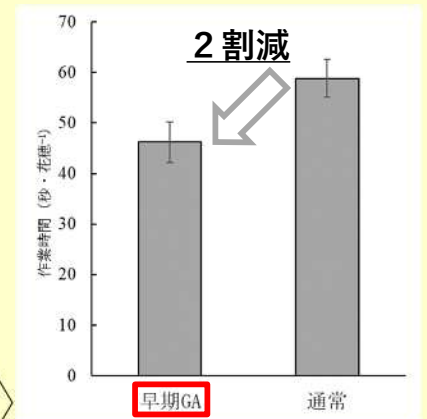
【早期GA処理した花穂】



【開発した作業体系】



【房作り作業の軽減】



愛知県農業への貢献

この技術が現場で実装されることで、県内で「シャインマスカット」を栽培している生産者の作業労力軽減が期待でき、さらなる栽培規模の拡大が可能となります。なお、早期GA処理は「サニールージュ」のみでの農薬登録(2024年9月現在)であるため、生産現場での使用を目的とした試験を実施中であり、2025年度での現場実装を目指しています。